



防災のとびら

東日本大震災から
8年10か月

石巻市立広瀨小学校防災だより 文責：佐竹
令和2年1月23日 No.26

ONE TEAMで賞☆

広瀨で取り組んでいる防災活動が、多くの場で認められ賞をいただきました。

ぼうさい甲子園「奨励賞」受賞！



広瀨小学校の防災の取組を「ぼうさい甲子園」コンクールに応募してきました。応募を始めて3年目の昨年は「はばタン賞」を受賞しましたが、今年度はその1つ上の「奨励賞」を受賞しました！！ 東日本大震災時、6か月にわたり小学校が避難所になったこと、地域と連携した合同防災訓練や、親子での危険箇所点検などが、高く評価されました。私達が積み重ね継続している防災活動が評価されてとてもうれしいです。ちなみに、「はばタン」とは、兵庫県のゆるキャラだそうです。

復興・防災マップ

「東北大学災害科学国際研究所特別賞」受賞！



2019年(令和元年)12月5日(木)

毎 日 新 聞



防災学習で災害時のご飯の炊き方を学ぶ児童ら＝広瀬小提供

ほっさい甲子園

県内3校が奨励賞

2団体に「ははたん賞」

優れた防災教育を顕彰する今年度の「ほっさい甲子園」（1・17 防災未来賞）は、毎日新聞社など主催し、県内からは、石巻市立広瀬小と気仙沼市立階上中、県立支援学校女川高等学園の3校が「奨励賞」に選ばれた。また、被災の経験と教訓から生まれた優れた活動に贈られる「ははたん賞」には、七ヶ浜町立向洋中の卒業生たちで活動する「きぎなP

プロジェクト」（高校生の部）と「女川1000年後のいのちを守る会」（大学生の部）がそれぞれ選ばれた。広瀬小は学校独自の防災手帳を見聞の親子に作成してもらい、ランドセルに携行させている。他にも、東日本大震災で避難所運営に携わった人の講演会を聞くなど、地域と連携した取り組みが評価された。階上中は東日本大震

災に関して地域住民へのアンケートを実施して実態を把握し、生徒らが「遺構・伝承館」で行う語り部活動に主体的に参加している。災害体験を生徒が継承する積極的な姿勢が特長だ。

女川高等学園は町内会の自主防災組織を参考に、生徒寄宿舎の自治会にも班の防災組織を設けた。多様な想定での訓練を頻繁に実施。卒業後に自分の地域で自主的に防災活動に参加できる生徒の育成を目標としている。

「ははたん賞のうち、きぎなPプロジェクトは東日本大震災で母親と祖母を亡くした姉妹の体験を基に紙芝居を制作し、小きぎな子どもたちに震災を伝えていく。女川1000年後のいのちを守る会は、「1000年後の命を守る」を合言葉に、会が編集した体験集「女川いのちの教科書」の小学生版や英語版の作成を目指す。【岡崎大輔】

震正発案に費円案